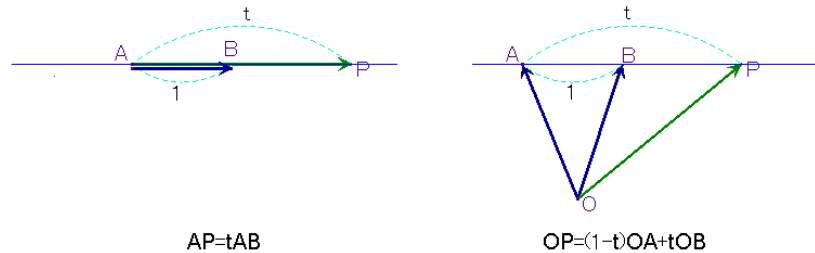


4.共線条件

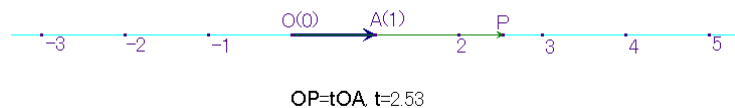
$$\begin{aligned}
 \text{Pが直線AB上にある} &\iff \overline{AP} = t\overline{AB} \quad (t \text{ は任意の実数}) \\
 &\iff \overline{OP} - \overline{OA} = t(\overline{OB} - \overline{OA}) \\
 &\iff \overline{OP} = (1-t)\overline{OA} + t\overline{OB} \\
 &\iff \overline{OP} = s\overline{OA} + t\overline{OB} \quad (s+t=1)
 \end{aligned}$$

(ただし O は, 直線 AB 上に無い任意の点)



4つの表現は全て同値です。2行目以外は全て大切です。また「 $1-t=s$ 」とおくと、「 $s+t=1$ 」ですから、3行目から4行目にはすぐ移れます。よって「始点が直線上にあるとき」(左上図)と「始点が直線上に無いとき」(右上図)の二つの場合になります。

4-1. 始点 O が直線上にあるとき



P が直線 OA 上にある時,

$$\overline{OP} = t\overline{OA} \quad (t \text{ は任意の実数})$$

と表されます。上の図では $t=2.53$ です。数直線の下についている「目盛り」が、P がそこに来た時の t の値を示しています。特に「 $P=A$ のときは $t=1$ 」, 「 $P=O$ のときは $t=0$ 」です。このように

t の値は、 \overline{OA} を単位長に取って作った目盛り

です。

4-1-1 CabriII による検証

P を動かしたときの t の値を読んで、それが数直線の目盛りであることを確認してください。

OP=tOA.html

4-2. 始点 O が直線 AB 上に無いとき

P が直線 AB 上にある条件は、

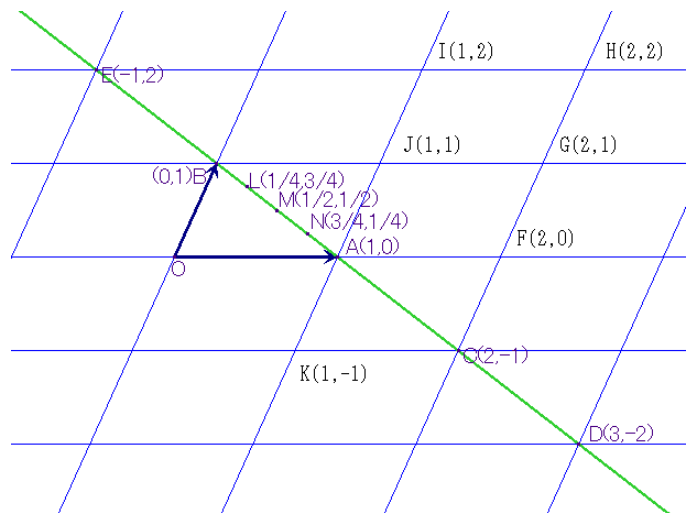
$$\begin{aligned} \overrightarrow{OP} &= (1-t) \overrightarrow{OA} + t \overrightarrow{OB} \\ &= s \overrightarrow{OA} + t \overrightarrow{OB} \quad (s+t=1) \end{aligned}$$

平面上の任意の点 P に対し、「 $\overrightarrow{OP} = s \overrightarrow{OA} + t \overrightarrow{OB}$ (s, t は実数)」と一通りに表せますが、**P が直線 AB 上にある時に限り** 「 $s+t=1$ 」となります。

例えば下図で、「 $\overrightarrow{OC} = 2\overrightarrow{OA} + (-1)\overrightarrow{OB}$ 」で「 $s+t=2+(-1)=1$ 」です。そして C は直線 AB 上にあります。(なお、上図で L は線分 AB を 3:1 に内分する点、M は中点、N は線分 AB を 1:3 に内分する点です。)

他の点に関しても (s, t) の値を求めてみると、

$$\left\{ \begin{aligned} \overrightarrow{OC} &= 2\overrightarrow{OA} + (-1)\overrightarrow{OB} \rightarrow (s, t) = (2, -1) \\ \overrightarrow{OD} &= 3\overrightarrow{OA} + (-2)\overrightarrow{OB} \rightarrow (s, t) = (3, -2) \\ \overrightarrow{OE} &= (-1)\overrightarrow{OA} + 2\overrightarrow{OB} \rightarrow (s, t) = (-1, 2) \\ \overrightarrow{OL} &= \frac{1}{4}\overrightarrow{OA} + \frac{3}{4}\overrightarrow{OB} \rightarrow (s, t) = \left(\frac{1}{4}, \frac{3}{4}\right) \\ \overrightarrow{OM} &= \frac{1}{2}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OB} \rightarrow (s, t) = \left(\frac{1}{2}, \frac{1}{2}\right) \\ \overrightarrow{ON} &= \frac{3}{4}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{4}\overrightarrow{OB} \rightarrow (s, t) = \left(\frac{3}{4}, \frac{1}{4}\right) \end{aligned} \right.$$



全て 「 $s+t=1$ 」 となり、従って、直線 AB 上にあります。

【注】 上図で「C(2,-1)」と書き込んだのは、「 $\overrightarrow{OC} = 2\overrightarrow{OA} + (-1)\overrightarrow{OB}$ 」の略です。「 $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ 」で表される点 P に対し「実数の組 (s, t)」を書き込んでいます。

4-2-1 Cabri II による検証.

P を色々動かしてみて、 $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ に対応する (s, t) の値を読み取ってください。何か気づきませんか？ また P が直線上にある時は「 $s+t=1$ 」となることを確認してください。

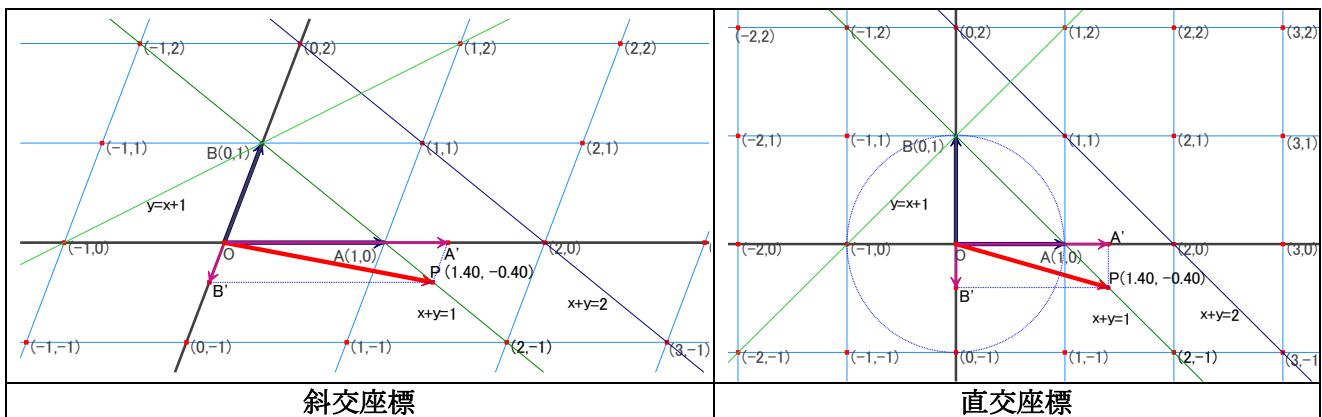
s+t=1.html

4-3. 斜交座標

「 $\overline{OP} = t \overline{OA}$ 」で表される点 P に「 t 」を対応させると、 t は「 \overline{OA} を単位長とする目盛り」のようなものでした。同様に

「 $\overline{OP} = s \overline{OA} + t \overline{OB}$ 」で表される点 P に対し「実数の組 (s, t) 」を対応させると、「 (s, t) は $A(1, 0), B(0, 1)$ としたときの座標のようなもの」になります。これを $(\overline{OA}, \overline{OB})$ を基底にした「斜交座標」といいます。

これに対し、今までのように直交する座標軸を用いた座標を「直交座標」と言います。



また、

「 $|\overline{OA}| = |\overline{OB}| = 1, \overline{OA} \perp \overline{OB}$ 」(単位直交ベクトル) の時は、斜交座標は直交座標と本質的に同じ

になります。よって、

「直交座標」は「斜交座標」の特別なものとして、「斜交座標」に含まれます。

ちょうど「正三角形が2等辺三角形に含まれる」ようなものです。

4-3-1 直線の方程式と共線条件

直交座標で直線 AB の式は「 $x + y = 1$ 」ですが、これは「 x 座標と y 座標の和が 1」になるような点の軌跡です。すなわち「 $(x, y) = (-1, 2), (0, 1), (1, 0), (2, -1), (3, -2) \dots$ 」のような点の集まりです。

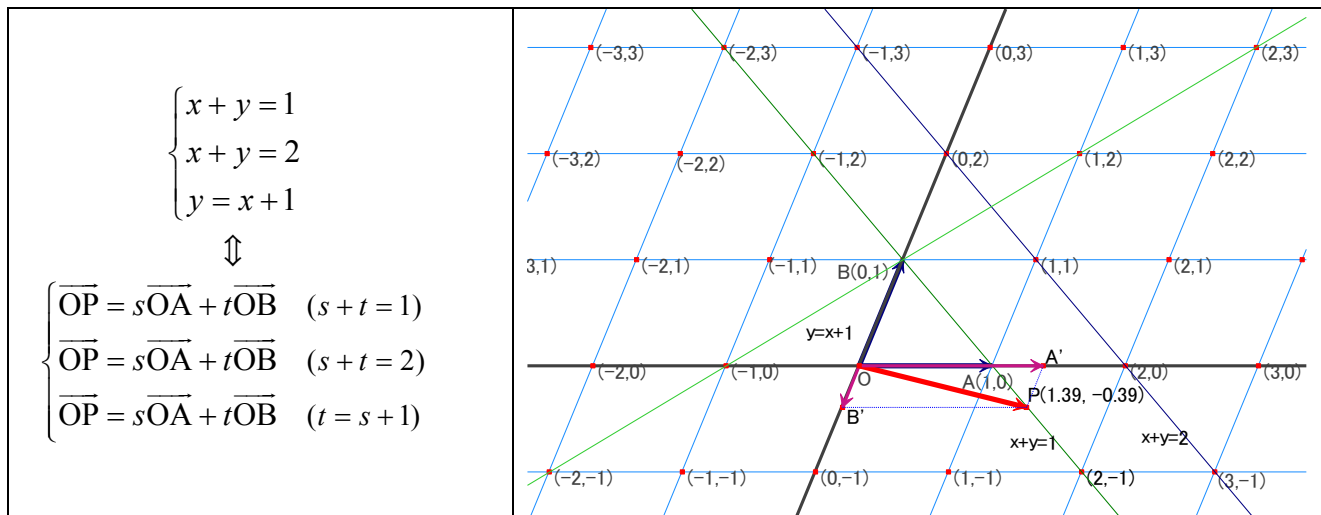
一方、「 $\overline{OP} = s \overline{OA} + t \overline{OB} \quad (s + t = 1)$ 」を満たすような点は、

「 $\overline{OP} = s \overline{OA} + t \overline{OB}, \quad (s, t) = (-1, 2), (0, 1), (1, 0), (2, -1), (3, -2) \dots$ 」などの点の集まりです。

そして、斜交座標と直交座標は「正方形を平行四辺形に代えた」だけの違いしかないので、斜交座標でも「 $\overline{OP} = s \overline{OA} + t \overline{OB} \quad (s + t = 1)$ 」は直線 AB を表します。

他の直線についても同様です。(上の 2 つの図を比較してください。)

即ち、直交座標系の直線「 $x + y = 2$ 」には、斜交座標系の直線「 $\overline{OP} = s \overline{OA} + t \overline{OB} \quad (s + t = 2)$ 」が、「 $y = x + 1$ 」には「 $\overline{OP} = s \overline{OA} + t \overline{OB} \quad (t = s + 1)$ 」が対応します。



4-3-2 Cabri II による検証

Cabri II で、実際に上のことを確かめましょう。P,A,B は引っ張れます。 shakou-zahyou.html

- ✓ A,B を動かして、直交座標は斜交座標の特別なものであることを確認してください。
- ✓ P を 3つの直線上を動かして、P が直線「 $x + y = 1$ 」上を動くときは、「 \overline{OA} と \overline{OB} の係数の和が 1」となることを、P が直線「 $x + y = 2$ 」上を動くときは、「 \overline{OA} と \overline{OB} の係数の和が 2」となることを、P が直線「 $y = x + 1$ 」上を動くときは、「(\overline{OB} の係数) = (\overline{OA} の係数) + 1」となることを確かめましょう。